

# 組合の団結で一層の運動強化を!

～市職労第77回・市職連第5回定期大会閉幕 10/31～

市職労・市職連は、10月31日（土）国際ホテルにおいて、市職労第77回・市職連第5回定期大会を開催しました。

☆

当日は、市職労の中央委員・代議員176人と公サ労からも市職連の代議員として12人が参加（ほかに傍聴3人）し、自治労や関連団体からも多くの来賓が参加されました。

今大会の議長団には、総務支部から鶴喰さん（市職労中央委員・市職連代議員）と保健福祉支部から石山さん（市職連代議員）が選出された後、執行部を代表して長谷川執行委員長から、「昨年の定期大会以降、人事院勧告で出された給与制度の総合



的見直しに加え、函館市独自の給与制度改革や3年間続いた独自削減の終結問題などを中心と

あいつをする長谷川執行委員長 する賃金確定闘争をはじめ、昨年12月の突然の衆議院解散総選挙、4月の統一自治体選挙闘争や2015春闘、人事院勧告期の取り組み、そして年間を通じて、職場改善や平和運動、地域課題など、連続した短期間での取り組みに対

し、ご協力をいただいた組合員・ご家族に対して感謝申し上げます。」

「賃金確定闘争について、人事院は、月例給と一時金が2年連続の引き上げとなる勧告を行い、実に24年ぶりのこととなったが、安倍政権は野党からの様々な追及を回避するため、臨時国会の開催が不透明な状況にある。特に今回の勧告では、再任用職員の給与改定も出されたことから、嘱託職員・公社や財団職員への波及も含めて、取り組んでいく必要がある。

今後については、最低限、閣議決定されるよう、中央段階での状況を見極めながら、市労連に結集し、交渉を強化して行く。」

「政治課題については、民意を無視した安倍政権の暴走が止まらず、集団的自衛権の行使容認や安保法制（戦争法案）、原発再稼動、労働法制の改悪問題など、国会での「数の力」で独裁的に推し進めている。」

「来夏の第24回参議院議員選挙では、野党での議席過半数の確保に向けて、自治労組織内の比例候補「えさき たかし」さん、北海道選挙区「徳永 エリ」さんの当選に向け、組織・組合員全体でしっかりと取り組まなくてはならない。」

「職場環境の課題については、以前より

組合にも様々な声が寄せられ、早急な職場環境の改善が必要だ。

すべての要因が職場とは限らないが、不幸な事故が起きたり、仕事を辞めたり、病気になるったり、陰で悩んだりしている職員がいるとの声が聞こえてくる。

職場の様々な課題を出し合いながら、仕事自体や組織のあり方、職場間の業務量の差の解消などについて、みんなで話し合っ



組織内議員：高橋道議

また、組織内の高橋道議、斉藤・道畑両市議から、今春の統一自治体選挙のお礼と議会活動報告をいただき、道本部・藤盛特別執行委員（市職労・市職連特執）から、「生活をして行く中で政治に無関心でいられるが、政治と無関係ではいけない」「私たちは、政治に声を示していかなければならない」との激励をいただきました。さらに、逢坂衆議員から、全国的に進め



自治労組織内議員：逢坂衆議員

務に対する誤った認識が広まっているが、公務の意味を今一度かみしめていただきたい」とのあいさつを受けました。

☆

大会では、2015年度一般経過報告および議会活動報告、2015年度会計決算報告・監査報告ののち、新年度の運動方針案、会計予算案および当面の運動方針案、第24回参議院議員選挙闘争方針案について執行部より提起し、いずれも特段の質疑もなく、全体の承認を受け、大会決議・大会宣言を採択して閉会しました。

私たちが置かれている情勢は、依然として厳しいものがありますが、大会で確認された方針のもと、私たちの賃金・労働条件はもとより、より良い公共サービスの確立に向けて、執行部が丸となって今後の市職労・市職連運動を展開していきますので、引き続き、組合員皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

時々労働者が勝つことがあるが、ほんの一時的にすぎない。たかひの本当の成果はその直接的な成功ではなくして、労働者のますます拡がり行く団結である。